

表 13 個別の指導計画について困っていることなど（自由記述）

カテゴリー（記述者数）		記述内容例
基本的理解	指導計画に関する基本的理解(5)	作成にあたり専門用語がわからないので、どのように表記すればよいか悩む。
	通級ならではの課題(4)	通級指導教室と通常学級それぞれの場での指導目標・内容が整理されていない。
指導の専門性	実態把握(6)	時期の問題 4月に担当したばかりの時は実態把握が難しい。 実態把握の難しさ 生徒の実態の見極め。
	目標の設定(15)	設定した目標に対する不安 実態分析や目標設定は適切かどうか不安。特に学習段階の見極めが難しい。 目標設定の仕方 成長がゆっくりな児童の目標がなかなか達成できなくて、いつも同じような目標になってしまうこと。 目標の焦点化 長期目標と短期目標の焦点化が難しい。
	指導内容・方法の検討(11)	指導・支援内容の検討 具体性を重視した場合、全体像が見えず、概要でまとめると個別の支援内容が見えてこない。 指導・支援の効果 目標達成のための手立てが当該児童にとって効果的かどうかははっきりしないこと。
	学習評価(8)	評価の妥当性 評価は妥当であるか。 評価よりも作成に重き 作成することに重きを置き、振り返ることが少ない。 評価の苦労や不安 何をもってどの程度達成することができたら評価が変化するかかの判断が難しく、指導に関しても手ごたえを感じられず果たしてこのままでもよいのかという不安がある。
	効果的な活用(20)	指導計画の活用 作成しているところで止まっていて、活用できていない。 計画に沿った指導 学校行事や特別支援学級内の合同学習で事前指導や練習の時間が多いため、計画通りに進まない。
調整力	保護者との共通理解(6)	保護者の手前、明確な表現ではなく表記せざるを得ない場合があり、こちらの真意を十分に伝えるに至っていないのではないかと。
校内体制他	作成時間の確保・情報共有(7)	自分以外の他の先生方と情報を共有する機会が少ない。
	様式の問題(14)	様式が市内でバラバラになっている。統一してほしい。
	その他(13)	進学、転学時の取り扱い。

※『青森県内小・中学校における特別支援学級、通級による指導に関する実態調査報告書』より抜粋

表 15 自立活動の指導について困っていることなど（自由記述）

	カテゴリー（記述者数）	記述内容例
基本的理解	自立活動に関する基本的理解(9)	生活単元学習や日常生活の学習と区別することができていない。
	指導事例等の参考資料が必要(9)	指導案集や活動例などが無いので、授業を行う際に、適切な指導を考えるのが大変。
指導の専門性	多人数・実態差への対応(47)	全員で取り組む際、学年差、発達段階の差などから、内容の設定が難しい。
	教育課程の編成(5)	自立活動の指導の時間をどのように設定すると、効果的に指導できるのか。
	目標設定(3)	どのように目標を立てて、どのような活動をしていくのかを決定することが難しい。
	具体的な指導内容・方法(25)	何をどのように指導すればいいのか毎時間悩む。
	個々の実態に応じた指導内容・方法(11)	個々の実態に合わせた内容の設定とそれを実施する時数の検討が難しい。
	専門的な指導(14)	気持ちのコントロールについての具体的な指導方法。
	計画に沿った指導(3)	授業がその都度その都度になってしまうことがある点。
	学習への意欲付け(2)	学習への意欲付けが難しい。
	学習評価・指導の評価(19)	評価が難しい。目に見えて障害の改善・克服はなかなか見られないため。
	指導効果の実感(4)	継続して指導してもなかなか成果が上がらない。
教材の準備(3)	児童の実態に合う教材・教具の準備が難しい。	
調整力／ 校内体制等	指導時間の確保(33)	指導したい内容に対して時間が不足している。
	その他(9)	自立活動に対する教員の理解。

※『青森県内小・中学校における特別支援学級、通級による指導に関する実態調査報告書』より抜粋

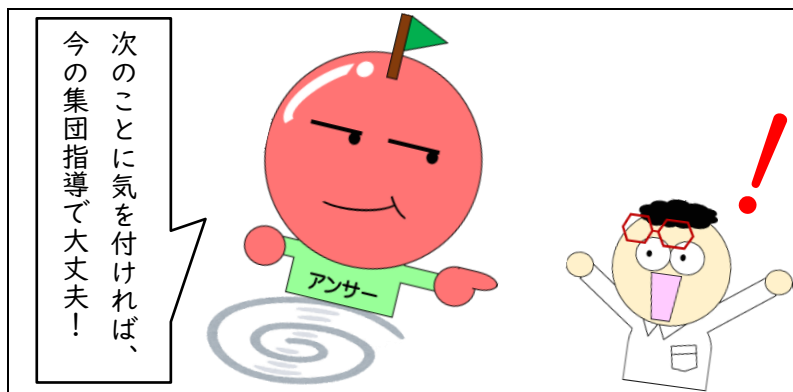
表 16 日々の指導について困っていること・課題など（自由記述）

カテゴリー（記述者数）	記述内容例	記述者属性			
		小 特 学	中 特 学	通 級	
具 体 的 な 指 導 ・ 支 援 (114)	学習指導の方法	自立活動以外の教科での学習で、どのような指導方法で 教えているのかを知りたい。	○	○	○
	行動面への対応	気分が左右されるところがあり、少しでも気に障ること があると指導が通らず、時間がかかることが多々ある。	○	○	○
	協力学級での支 援	協力学級での学習でのめあての設定が難しい。教科の内 容理解や技能習得に困難があるのでついていけないこと があり、本人の委縮につながるのでは無いかと心配にな る。	○		
	実態把握から評 価まで	しっかりとした実態把握ができていのかどうか、又その 実態に応じた指導になっているか、いつも悩みます。適 切な評価ができていのかということも自分自身の課題 です。	○		
	指導の系統性の 確保	臨機応変な対応や指導になりがちで、指導の系統性が掴 みにくい。	○		
	不登校への対応	通級を利用している児童が不登校であることの対応。		○	○
進路関係	知的障害学級に在籍する生徒の普通高校への進学に向け た指導と手立て。		○		
異 学 年 複 数 児 童 へ の 対 応 (88)	学習面への対応	障害の程度が一人一人異なり、複数の学年にわたる児童 へのきめ細かな指導・支援。	○	○	
	協力学級での対 応	複数学年を担任しているため、交流及び共同学習の際、 協力学級での支援に行けないこと。	○	○	
	個と全体のバラ ンス	様々な障害種に対応することが難しく、教員が足りない ため、個別に指導したいところを複数人一緒にして少人 数で対応しているところがある。			○
連 携 (28)	校内支援体制	関係する教員・職員との情報共有、連携をこまめにする のが大変。	○		
	他教員の理解	インクルーシブ教育についての理解が全教員に不足して いて、共通理解して進めることが困難である。		○	
	校内での相談先	相談相手が少ない。		○	
	家庭との連携	児童の健康的・家庭的事情や都合により欠席や遅刻が多 いこと。	○	○	
専 門 性 の 向 上 (5)	教員の専門性	専門的な知識が少ない。		○	
	研修機会の確保	専門的な研修の機会が少ないため、適切な指導ができて いるか不安である。			○
そ の 他 (14)	他学級への指導・ 支援	通常学級の児童の対応を頼まれ、支援学級の児童の指導 ができない場面がある。	○		
	環境設定	校内 LAN がないので、タブレット端末での指導で制限が ある。	○		
	知的障害教育課 程の編成	自立活動、日常生活の指導の内容の違いがあまりよくわ からない。	○		
	周囲の児童への 対応	周囲の児童の理解を図ること。	○		
	在籍校との情報 共有	他校通級で行動面に課題がある生徒の場合、在籍校での 様子を知る方法に限られ、情報が不足しがちである。			○

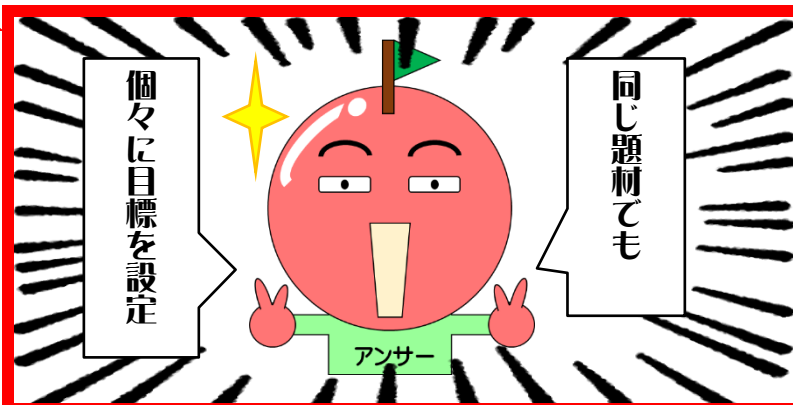
※『青森県内小・中学校における特別支援学級、通級による指導に関する実態調査報告書』より抜粋

Q19

学級の子供全員に同じ活動内容で集団指導してもよいのでしょうか？



A



同じ題材でも個々に目標を設定する

- 同じ題材で集団指導を行う場合、各自の個別の指導計画に基づいて、個々に目標を設定します。
- 評価の観点や方法も個々に検討します。

個別の指導計画に基づく自立活動の指導は、個別指導の形態で行われることが多いですが、特別支援学級の場合、担任が一人で複数の子供に指導しなければならない状況も少なからずあります。指導目標（ねらい）を達成する上で効果的である場合には、小集団を構成して指導しても問題ありません。ただし、自立活動の指導計画は個別に作成されることが基本であり、最初から集団で指導することを前提とするものではない点に十分留意しましょう。

以上のことから、同じ題材で集団指導を行う場合であっても、個々に目標を設定することになります。併せて、子供一人一人の目標の達成状況を把握できるように、個々に評価の観点や方法を検討する必要があります。


（例）小集団でのソーシャルスキルの指導

①本時の目標

相手にとって「気持ちのよいあいさつ」の仕方を知り、実践しようとする態度を身に付ける。

②個別の目標

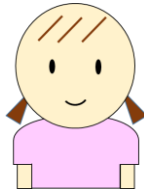
よしきくん



- ・少しずつ学級での生活に慣れてきたところ。
- ・自分からあいさつする様子があまり見られない。

目標 教師の手本を見て、「気持ちのよいあいさつ」のロールプレイで実演することができる。

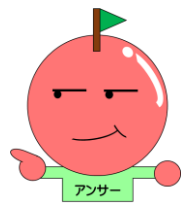
まいこさん



- ・自分からあいさつできるようになってきた。
- ・相手をあまり見ないであいさつする様子がしばしば見られる。

目標 「気持ちのよいあいさつ」とそうでないあいさつとの違いに気付くことができる。

目標と評価はセットで考えよう♪
ロールプレイで何をどの程度ねらう？
発言の内容？振り返りシートの記入内容？



よく一緒に読まれている Q

- Q* 「*****」
- Q* 「*****」